

【研究3 教育相談部】

児童生徒の人間関係の課題に対応した育成プログラムに関する調査研究

－教師は人間関係をどう捉えて何を課題としているか－

研究概要

教育相談部では、児童生徒の心理的成長を促進し、発達促進的・開発的なカウンセリングとして、心理教育を背景理論としたグループ・アプローチの手法を参考に、人間関係を育む育成プログラム（教員研修プログラム・学習プログラム）を開発し、教育相談部が主管する学校支援訪問研修（教育相談訪問研修）や講座・研修等で提供してきた。プログラムには、開発から年月を経過したものもあり、社会の状況や児童生徒の状況、学校への社会的な要請、そして、心理教育の新しい知見等から、学校現場の課題に合わなくなっている可能性がある。

そこで、この研究では、これまでに開発された育成プログラムを刷新し、児童生徒の今日的な課題に対応しながら学校現場の支援に生かせるよう学校支援訪問研修（教育相談訪問研修）の枠組みを含めて2年間をかけて再構築することを目指している。

1年次の研究では、育成プログラムに期待される役割と機能を改めて確認するために、教師が人間関係をどう捉えて何を課題としているかを探索した。

教職員への聞き取りやアンケートの検討から、育成プログラムの修正仮説を、①教師と児童生徒の成長を目指し、逸脱を統合していく一次的支援プログラム、②自他の理解と受容を基にした対人コミュニケーションの促進、とし、育成プログラムのうち、教員研修プログラムの修正に着手した。

育成プログラムの性質を、自他の理解と受容を基にした対人コミュニケーションを媒介しながら相互交流を通して自分らしい主体の自立と共在を目指す人間関係の課題に対応する一次的支援プログラム、とし、2年次の研究において、修正プログラムを研究協力校や教育相談訪問研修等で試用しながら検討し、令和5年度から、課題別に整理した教育相談訪問研修で提供する予定である。

<キーワード>

予防的・開発的カウンセリング

育成プログラム

グループ・アプローチ

心理教育プログラム

人間関係の課題

対人コミュニケーション

教師らしさ